それはＥＳＤ？

（イー エス ディ）

カメは万年、
ＥＳＤは何年！？

ちなみに私は、
中国四国ＥＳＤ推進員の「カメ吉」です。

考えてみて？

問題って単純じゃない・・・・。

考えてみて？

自分の行動、活動に責任を・・・・。

ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）とは

私たちの社会が、持続可能な社会になるように
価値観、行動、ライフスタイルを改めるための
学び、人づくりです。

ＥＳＤは、「Education for Sustainable Development」の略称。
2005～2014年は「国連持続可能な開発のための教育の10年」です。

ＥＳＤ 中国四国

中国四国地方環境事務所

どれがＥＳＤ？ → → どうすればＥＳＤ？

ESD活動の場は、家庭、学校、職場、地域など意識さえあれば、すべての場所で行うことができます。まず、地域の未来図を一人一人が描き持ち、それらの思いを地域で育むことが、ESDのスタートです。

下記の例を参考に、考えてみましょう。

Ⓐ 地域の川の草刈り

内　容：毎年みんなで地域の川をきれいにした。農業、遊び、生活に、関わりのある川だからこそ、ずっと良い状態で守り続けたいと感じた。

参加者：地域の人

「地域への愛着」

草刈りを続けることで、子どもたちの遊べる川原になり、景観も美しくなる。災害防止にも繋がる。地域に関わり、地域に愛着を持つことが、地域の絆や思いを深め、継続する力となる。地域への愛着を育む活動は、ESDと言える。

ただし、誰かが仕方なしに川の草刈りをしているだけなら、ＥＳＤじゃないよね。

Ⓑ ごみ拾い

内　容：イベントでとりあえずごみ拾いをした。缶やタバコの吸い殻などのごみが目立ちポイ捨てしてはいけないと再認識した。

参加者：イベントに参加した人など

「元凶を絶つ」

単にごみ拾いだけが目的では、イベントの終了とともに問題意識は低下し、次への活動に繋がらない。「なぜそこの場所でごみを拾うか」を考え、ごみが無くなる方法を考え、行動していくことがESDと言える。

ごみの原因を探るといろんな問題が見えてきます。解決策を見つけ、ごみ拾いを減らすことができると良いですね。

Ⓒ 食　育

内　容：地域の農産物や加工品を学校給食に利用。授業などで生産現場を体験し、田畑や自然の恵み、作り手の思いなどを体感し、その背景にある地域の歴史なども学んだ。

参加者：地域生産者、学校関係者など

「つながりを考える」

身近にある「食」を通じて、地域風土や歴史を再認識でき、生産現場を体感することで、食への感謝の気持ちが芽生える。さらに高齢化など多くの課題を抱えている現状を知ることもできる。これらの問題を解決するために行動できれば、よりESDである。

ただし、生産者と消費者の交流がなく、ただ地域食材を義務的に給食に使うだけならＥＳＤじゃないよね。

Ⓓ 町おこし

内　容：町を元気にしたいという思いで、他の地域で成功した企画や事業をそのまま取り入れて町おこしイベント実施した。一時的には盛り上がり、集客、経済効果もあったが、次第にどちらも減少していった。

参加者：地域の行政、企業、人など

「地域を知る」

地域に元々ある素材や、長年に渡って受け継がれてきた文化や風習を活かしたもので町を元気にすることが、持続可能の原点になる。一過性に終わっては本当の「町おこし」とは言えない。その地域の人が長く楽しく関われるもの、次代に受け渡したいものを育むことになれば、ESDと言える。

地域の元気は地域の人で！自分たちの町を好きになることはＥＳＤですね。

ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）は、世界の人たちやこれから生まれる人たちのことも視野に入れ、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、地球や地域のために自ら社会を変えようと行動する人づくりです。

まずは、地域への参画から始めませんか。地域づくりに関わる中で、地域への愛着やこだわり、人と人との絆、より広い社会との関わりも見えてくるのではないでしょうか。

「ＥＳＤ・環境教育お悩み相談室」を実施しました。

2005年より、世界各地でＥＳＤ活動がはじまっています。中国四国地方でもより活動を広めるために「ESD・環境教育円卓会議in岡山　ーESD・環境教育お悩み相談室ー」を開催しました(2007年２月24日)。行政、国連大学、ESD-Ｊなどの専門家や、中国四国地方を中心に教育関係者やESD・環境教育に関心のある人たちが集まって活発に意見を交わしました。

すべての環境教育はＥＳＤ

ESDは環境、経済、社会的側面を総合的に取り入れること。そして、知識を得るだけでなく、行動へうつすこと。国が進める取り組みは、①普及啓発、②地域における実践、③高等教育機関における取り組み。各省庁と協力しながら進めていきます。

環境省の人の話

これからの環境教育の中にＥＳＤを

教育基本法が改正され、教育目標に「環境」が入りました。また、中教審から「環境教育の観点から持続可能な社会の構築が強く求められている状況をふまえること」と「学校と家庭や地域などの学校外での教育活動の役割を明確にした上で、それぞれの分担と連携を具体的に推進すること」が指摘されています。

文科省の人の話

日頃の疑問について、みんなで話し合いました。

Q．ＥＳＤってどういうもの？

単なる学習ではなく、実際に地域の問題を解決することで、一人一人の意識が変わっていく活動だよね。

世界の大きな問題を身近な具体的な問題に結びつけて自分の問題として学ぶものね。

教師が一方的に教えるのでなく、教師も生徒も共に学びあうことかな。

ポイント

ＥＳＤとは

５年後も50年後もより良い社会であるためにはどうすれば良いか考え、実践する。それが基本です。

難しく考えないでね！

Q．子どもたちをどう導いていけばいいの？

ある１学年ですべてを教えられないわ。小学生でわかることは小学校で、中学生になるとわかることは中学校で。ステップを踏んでいくことが大切だわ。

「理解する、納得する」（腑に落ちる）という体験が必要だね。

ポイント

知識の前に、「思いを育てる」

まず、「目的」を持つこと。そこから全てははじまります。やり方、導き方に決まりはありません。枠にとらわれず自由な発想で。

身近な問題から

Q．違う立場の人がどう連携していけばいい？

学校や地域の教育活動に、親ももっと関わってほしいよね。

楽しみながら理解できる内容にするためのアイディアがほしいな。地域の知恵袋を結集する「場」を作りたいんだ。

公民館は、学校以外でＥＳＤ・環境教育の拠点となりえる場所だから、もっと活用するといいわよ。

ＥＳＤ・環境教育の場は学校以外の所にもある。地域で指導できる人材を市町村に紹介してもらうのもいいわ。

ポイント

みんなで助け合い

地域の素材や人材を最大限に活かしましょう。
みんなの知恵が大きな力につながります。

まずは地元の地域から見直してみては？

ＥＳＤをはじめてみませんか？

ＥＳＤを進めることで、地域や地球を元気にしていくことにつながっています。

急がず慌てず冷静に！

わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画

2006年３月関係省庁連絡会議決定

●「国連持続可能な開発のための教育の10年」(2005年～2014年)において、あらゆる人々が質の高い教育の恩恵を享受し、持続可能な将来と社会の変革のために求められる価値観、行動、及びライフスタイルを学び、各主体が持続可能な社会づくりに参加する世界を実現することを目指し、関係省庁が連携して本実施計画に掲げられた諸施策を着実に実施することを目的として策定。

●持続可能な開発のための教育(ESD)において、わが国では持続可能な開発のための環境、経済、社会面の多岐にわたる課題の中で、「環境保全を中心とした課題を入口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進める」と明記。

●あらゆる主体が参加・連携すること、環境及び経済、社会のテーマを総合的に扱うこと、参加型アプローチを重視すること、体系的思考力やESDの価値観を重視すること等のESD実施の指針に基づき、政府は施策を推進。

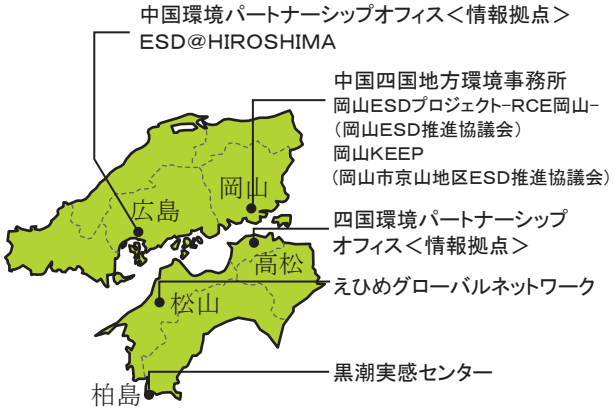
●初期段階の重点的取組事項として、普及啓発、地域における実践、高等教育機関の取組を提示。

●ESDの推進において個人、家庭、学校、地域、NPO、事業者等の各主体に期待される取組を提示。

●ESDに関する国際協力を推進。

●ESDの10年の評価方法を検討し、中間年(2009年)に見直し、最終年(2014年)に評価。

中国四国地方のＥＳＤ拠点と先行事例



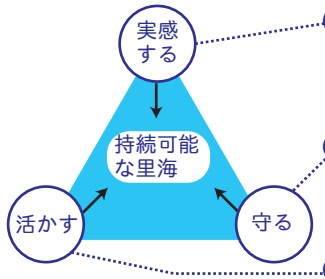
■中国四国地方におけるＥＳＤ活動

中国四国地方には、地図の先行事例以外にも数多くの地域や団体がESDに取り組んでいます。環境保全を中心に、国際貢献、福祉、人権、ボランティアなどの入り口から、地域に根ざした様々な活動を行っています。

■環境省ＥＳＤ促進事業

黒潮実感センター（2006年度採択）

黒潮実感センターは、四国西南端の自然豊かな柏島を「島がまるごと博物館」と捉えた活動をしている団体です。「里海」をキーワードにして、地元住民の方と観光客と共に、持続可能な里海づくりを目指しています。



❶自然を**実感する**取り組み
- 海洋生物の調査研究や海洋セミナーの実施
- 海の環境学習会や体験学習の開催
- エコツアーの開催

❷自然とくらしを**守る**取り組み
- 海洋環境の定期的な調査を実施
- サンゴや藻場の保全活動
- 自然とくらしを守るルール作りのお手伝い

❸自然を**活かす**くらしづくり
- 住民の物産販売「里海市」への参加
- 望ましいかたちでの海洋資源活用の振興
- 豊かな漁場づくりのお手伝い

※里海とは
人が海からの豊かな恵みを享受するだけでなく、人も海を耕し守る。人と海とが共存できる場所‥それが私たちの目指す「里海」です。私たちは地元住民の方と会員の皆様と共に、全国に先駆けた里海のモデルを柏島に作るよう努力しています。

関連ウェブサイト

内閣官房　http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/index.html
外務省　http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/edu_10/index.html
文部科学省　http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/index.htm
環境省　http://www.env.go.jp/policy/edu/desd.htm
NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)　http://www.esd-j.org/

発　行

中国四国地方環境事務所
〒700-0984 岡山市桑田町18-28
明治安田生命岡山桑田町ビル1、4F
TEL：086-223-1577　FAX：086-224-2081
http://chushikoku.env.go.jp/earth/mat/m_2_1.html